



## 環境講演会の開催に当たって



令和元年8月27日、地域づくり協議会地域環境部会として初めてとなる環境講演会を富岡まちづくりセンターで開催しました。当日は、各地区の環境推進員・各自治会の方々等42名の参加がありました。地域づくり協議会の渡辺会長、同協議会鹿島副会長にも参加をいただきました。なお、鹿島さんには地域コミュニティー部会長の立場でこの講演会の開催にお力添えをいただきました。

講演のテーマは、今や社会問題にもなっている「海洋プラスチック問題とプラスチックごみについて」で、所沢市生涯学習推進事業の一環として市の職員2名の方に富岡まちづくりセンターまで来ていただき「出前講座」という形で行いました。講演の前半は市のプラスチックごみの現状や処理等について、後半は海洋プラスチック問題について細かい資料と映像に基づいて説明をしていただきました。

市では、全てのごみを9分別して処理し、そのうち容器包装プラスチック、ペットボトルは、電力・通信用資材や土木建築用資材等々に資源化し再利用され、その他のプラスチックはごみとして処理されているとのことでした。よく言われる「分ければ資源、混ぜればごみ」という言葉を改めて思い出しました。

後半の海洋プラスチック問題では、プラスチックは、手軽で耐久性に富み安価で生産できることからいろいろなものに利用されていること、しかし、反面使い捨てや利用後の処理が適正にされないことで環境中に流出し、最終的に行き着く場所が海であるという説明がありました。所沢市には海はないが、地域のプラスチックごみが川を経由して海まで流れ着いてしまう現状を考えなければならないということでした。海にあるプラスチックごみは時を経て小さくはなるが消滅しないこと、ごみを食べた魚による人体への影響も懸念されるとの説明もありました。その他、日本をはじめ世界中でプラスチックごみが多すぎてリサイクルが追いつかないという状況にあるとの話もありました。

講演の最後に、プラスチックごみを減らすために自分自身の取り組みのためのカードが参加者全員に配布されました。私たちの日常生活の中でごみを減らすための工夫や小さなことであっても地道な実践がごみの減量の第一歩になるということを思い起こさせてくれた講演でした。この紙面をお借りし、参加された皆さま方に改めてお礼とごみ減量に対する引き続きのご理解とご協力を私からもお願い申し上げます、結びとさせていただきます。

## 認知症サポーター養成講座



令和元年10月12日（火）10時30分より、富岡まちづくりセンターホールにて富岡地域づくり協議会のコミュニティ部会と福祉部会共催による認知症サポーター養成講座「認知症を学び地域で支えよう」が開催され、富岡住民70名が参加しました。

講座の内容は、前半は講師山田氏（小規模多機能「さんとめ」）と有井氏（清和病院）による講演、後半は寸劇に分かれていました。

講演では、認知症は高齢者5人に1人になるといわれる時代で、決して他人事ではなく何時自分が、家族が、身近な人になるかもしれません。認知症サポーターになったからといって特別な事をやるわけではなく、認知症の人と家族を温かく見守る事から始めます。認知症の人への対応の心得として、「驚かせない、急がせない、尊厳を傷つけない」の3つが必要だと話されました。

後半は寸劇により理解を深めました。富岡地域づくり協議会の渡辺会長、鹿島副会長、元田部会長などが俳優となり、設定は富岡まるまるサロンに認知症らしき高齢者が訪れた時の悪い対応と良い対応を演じ、笑いをさそったりしました。そして講師による解説がありました。

受講者に「認知症の人を応援します」という意志を示すオレンジリングを渡され終了しました。



### <編集後記>

前回の広報誌に、野老澤と称されたものが所沢と表記されるようになったこと、これが市の名前の由来のひとつにもなっていることを趣旨とした一文を記載しました。

これを読んでいただいた方から、これ以外の由来とは何か、どのような説があるのかという質問をお受けしました。

そこで、かつて読んだことがある本を探し出して調べてみることにしました。その読んだことがある本というのは、「ところざわふるさと散歩」所沢市民族研究会です。

ここには、上記の説以外にみつつの説が紹介されています。

まず一つめは、アイヌ語の「ト・オロ・ベツ（沼を持つ沢）」で、所沢の地形にあてはまりそうだということです。

二つめは、和服を着たときの、両方のえりを合わせた「フトコロ」にちなんだもので、これも所沢の地形がこれににっていたからだそうです。

最後三つめは、福島県伊達郡にあった所沢村に、地形を含め条件がよくにっていたのでその名がつけられたということです。

こうしてみると、地形の特徴に由来するものが多いことに気づきます。

今日現在確認できるのは以上ですが、もしかしたら、他にも有力な説が見つかるかもしれません。期待を込めて、興味深く待ちたいと思います。

今回は、お受けした質問を基に、「所沢の（地名の）由来」について、それに特化して記載しました。所沢及び富岡のことに少しでも興味をもっていただければと・・・。